

挨拶

こんにちは、産活分科会です。

まず、産活分科会の名前についてご説明します、当初は、産業分科会でしたが産業を活化するための政策を協議するという意味で産業活性化分科会、短縮して産活分科会としました。

産業活性化とは、今後、島田がどんな施策を建て、どんな組織が必要か、行政、産業界、市民がバラバラに活動しても活性化出来ないのではと、オール島田で地域を考える方法を協議してきました。

序章

最初に画面に写し出されている数字を見てください。写真① 7 7 9 3 6 これは 2040 年の島田市の人口です。現在の人口は 101,038 人です。後 23 年後には、23,000 人人口が減ります。この人口は旧金谷町の人口より多いです。このままでは、島田市は雇用が減少し、人口は減り、町は衰退します、そして、負のスパウラルに入ってしまう。今こそ、ビジョンと戦略の策定をしなければなりません。『まち・ひと・しごと創生』をするため、雇用創出、教育文化、福祉医療、安全安心、住居環境など多種多様ありますが、去教育文化、福祉医療、安心安全、住居環境は他の分科会にお任せし雇用創出に絞り検討してきました。

～5分

前説

最初に島田の昔を見てみましょう。

江戸時代、大井川の川止め文化で栄えた島田宿と金谷宿、写真② 当時は、駿府に次ぐ宿場町でした。多くの人が滞在し飲食をして、着物、足袋、わらじを買い今で言う経済効果は計り知れないものだったと思います。昭和の時代、昔の名残なのか不明ですが、飲食店、衣料品店、靴屋、美容院の数は他の市町村より人口比率的に多かったそうです。

明治に入り豊かな奥大井の森林と豊富な水量を蓄えた大井川の恩恵を頂き木材の町として林業、木材加工業、製材機械業が栄、旧幕臣が牧の原開拓に入り茶業はじめ、また、朝霧等の気象条件に恵まれた川根は、最良のお茶栽培に適し茶業、製茶業、茶流通業、および製茶機械業が栄ました、農業に限らず、豊富な大井川の伏流水を求めパルプを始めとする工場が立地し、木材とお茶の町、工業の町として発展してきました。自分の子供時代は、多くの製材所があり、貯木場でよく遊びました。「ちなみに自分の母親の実家も製材所でした。」5月にはお茶を蒸す臭いが町全体を覆っていました。

写真は、写真③ テッポウです、木材でダムを作り一気に下流に木材を流し、写真④ いかだに組んで大井川を利用して運搬していました。写真⑤ 当時の大井川の水位は帆掛

け船が運航できる深さでした。電力需要の増加により、写真⑥大井川に多くのダムが建設され、写真⑦大井川の水位がダムにより大井川の物流機能は減少し、鉄道による物資の運搬が始まりました。写真⑧当初、大井川鉄道はダムの資材運搬、写真⑨と材木の運搬写真⑩⑪に利用をしており活気のある鉄道でした。

平成に入り、製材所は毎年減少して行き今は数えるほどになってしまいました。お茶に関しては、後継者が居なく耕作面積は減少し、販売不振と価格の下落により生産者の経営は毎年、苦しくなっています。

製材機械、製茶機械も苦戦しており、大井川鉄道もトーマスだよりです。写真⑫⑬⑭そんな現状を打破するため、写真⑮市民、地元企業、農家、金融、学校、行政が英知と汗をかいて、1つになり戦略をねり戦術を建て島田市を運営して行くことが生き残る道と考えました。写真⑯各自バラバラに活動していた事を、オール島田で行うのです。

本論写真⑰

写真⑱島田の資源を考える、SWOT(スウォット)分析をしてみました。

1. 現状分析 写真⑲お茶産業の現状分析 強み・弱み・機会・脅威で分析
写真⑳新産業の現状分析 島田市の資源を生かした分類分析
写真㉑㉒分科会の資料参照
2. 戦略 お茶産業の戦略 お客・地域・商品・価格について戦略を練る
新産業の戦略 島田の資源（木材・特産品・地下水・自然）で戦略を練る
分科会の資料参照
以上が外部環境
3. キーワード 写真㉓分析をして戦略を練る・・・戦略から・・・写真㉔戦術を立て実行する、どこに行けば実行できるの？誰に相談すれば実行できるの？
実行するためには、プロデュースチームが必要写真㉕島田と言う地域ブランドを確立するため。写真㉖地域ブランドとは何か？写真㉗街並み・自然・歴史・建造物・食、からなり、写真㉘産地ブランドから、地域そのものをトータルにブランド化する。
産地から地域に写真㉙「特産品・観光地」から写真㉚「地域そのもの」に写真㉛「経済的拡大から」から写真㉜「地域の誇りと創造」に写真㉝「まとまりにくい組織」から写真㉞にプロデュースしなければなりません。
では、誰がプロデュースするの？オール島田は誰が音戸取るの？
大きな問題です、実行する事は解りましたが、実行する組織を作らないと実行できません。

全体

テーマ1 地域活性化の民間による、プロデュースチームの開設

写真⑳ 実行する組織は何か、それは、地域活性化の民間によるプロデュースチームの設置です。そして、いつでも相談できる常設窓口の開設です。

そのチームは、オール島田で構成し、写真㉑ 3本の柱をバックアップします。

3本の柱とは何か？まずは、

写真㉒ 環境整備

写真㉓ 起業、商品開発、顧客開拓等、相談の出来る常設窓口としての役割

起業・・・・・・・・開業相談、開店相談、融資相談、経営経理相談

商品開発・・・・・・・・商品の検査、開発相談、融資相談、マーケティング相談、法的相談

顧客開拓・・・・・・・・市場調査、顧客調査、価格調査、信用調査

変革・改革・・・・・・・・既存の仕組みの改革

写真㉔ ネットワーク

写真㉕ 環境整備が整のり次第、実戦に取り組むネットワーク作る。

流通、金融・・・・・・・・仕入先、納入先、外注先、金融機関等のネットワーク構築

研究、法的・・・・・・・・新商品に関する情報と研究、法的機関のネットワークを構築

調査、戦略・・・・・・・・調査の集計後に販売戦術、価格設定を練るネットワークを構築

写真㉖ 発信システム（アウトプット）

写真㉗ 最後に発信して国内外に宣伝する。

発信システムを構築して、サービス、商品、技術、デザインを発信しなければ成功しない。

発信するためのシステム（IT・マスコミ・ロコミ）を作る

写真㉘ プロジェクトチームとネットワーク

プロジェクトチームは、ワンストップで相談を受けます、チームは相談内容にネットワークを使い、相談者に応えます。

資金を金融機関に、商品開発は大学、研究機関に、調査等は市民団体、NPOなどチームがカテゴリー毎に相談者に紹介し専門家による経営指導をします。チームは常勤職員以外に地域相談員を設け常に市民の問題点に耳を傾け、チーム自体が地域活性化の戦略と戦術をねり、実行部隊を募る事を行います。

そんな中で行政・議会にもネットワークに入り込んで協力をして頂く。

テーマ2 プロデュースチームを支援する部署を市役所内に作って、後方からの支援
写真④してもらいたい。

支援 チームは島田市の委託を受けた専門家と情熱のある市民を軸にネットワークで運営します。行政には行政にしか出来ない事の支援をお願いしたい。

資金的支援・・・・・・公的資金で運営費の支援をお願いしたい。

行政的支援・・・・・・チームを島田市の組織に組込、島田市として活動できるようにしたい。

人力的支援・・・・・・支援部署はチームと一緒に産業活性化の取り組みをして頂く、担当係と担当職員の配置をお願いしたい。

政治的支援・・・・・・関連条例の制定、県及び国への働きかけをお願いしたい。

写真⑤ 地域活性化は経済だけではありません。いかに地域が一体になって取り組むかが大事です。

市民一人一人が行動を起こすことが大切です、地域を元気にするにはどうすればいいか考えてプロジェクトチームに相談に来てくれるような島田にしたいです。

写真⑥以上 産活分科会の発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。